国消国産

～みんなで考えよう食の未来～

国消国産
こくしょうこくさん

今月号の特集は「国消国産（こくしょうこくさん）」について。「国消国産」とは、ＪＡグループが提唱している「国（こく）」民が必要とし「消（しょう）」費する食料はできるだけその「国（こく）」で生「産（さん）」するという考え方のこと。

私たちが生きるために欠かせない「食」。それは生産者の皆さんが“食卓においしいものを届けたい”という思いで作り支えてくれています。

しかし現在、日本はさまざまな“食のリスク”に直面しているのはご存じですか？“常に食料がある”というのは当たり前ではなくなるかもしれません。

状況を変えていくには私たちの行動が鍵を握っています。

この機会に、私たちの「食」の未来について考えてみませんか？

どうして今、「国消国産」の考え方が注目されているの？

世界的に新型コロナウイルスの感染が広がり、マスクの需要が急激に増加したことで国内でマスクが足りなくなったことを覚えていますか？この問題が起こった理由は、大部分を海外からの輸入に頼っていたから。

現在、日本の食料自給率は38％（2021年度・カロリーベース）で、約６割を輸入に頼っています。もし、この状況で同じようなことが起きたら私たちの食はどうなってしまうのでしょうか――。土を耕し、長い時間をかけて育てられる農畜産物は、足りなくなったからといってすぐに作ることはできません。

そんな食の安全保障への危機感から、ＪＡグループでは「国消国産」を提唱しています。

「食の安全保障（食料安全保障）」とは、全ての人が将来にわたって良質な食料を適正な値段で手に入れることができること。

「国産国消」ではなく「国消国産」なのはなぜ？

「国産国消」は「国内で生産した食料を国民が消費する」という意味になり、国産農畜産物の消費拡大を促すには有効な言葉です。それに対して「国消国産」は、消費拡大はもちろんですが、さらに“生きるために必要な食料はできるだけ日本で作って食料の安全を確保していく”という食の安全保障を重視して作られた言葉です。

また、私たちが必要とする食料を作り続けていくには、国民が国産農畜産物を積極的に消費し、生産者が安心して農業を続けられる産業になる…という循環を作っていかないといけません。こうした理由から、「国消国産」を消費拡大や国内農業への理解を促すキーメッセージとして呼びかけています。だから「国産国消」ではなく「国消国産」なのです。

10月16日は国消国産の日！　10～11月は「国消国産月間」

ＪＡグループは、国連が定める「世界食料デー」に合わせ10月16日を「国消国産の日」、10～11月を「国消国産月間」と位置付けています。

ＪＡしまねでは、この考え方を皆さんに知ってもらい、実践していただこうとＣＭの放映やイベントでの啓発活動などを行っています。

ＪＡしまね国消国産ＣＭも放映中！

現在日本ではさまざまな「食のリスク」に直面しています

①食料自給率の低迷

日本の食料自給率はカロリーベースでわずか38％。1965年度の73％から大きく低下しています。実はこの数字、先進国の中でも極めて低い水準です。

②農業生産力の弱体化

国内の農業者数は年平均で約６万人のペースで減少しており、高齢化も進んでいます。農地もピーク時から約176万ヘクタールも減少。これは四国と同じくらいの面積に相当します。

日本の農家さんの数を例えると、100人の人がいたとしたら、そのうちのたった２人が100人分の食べ物を作っている計算に…。

③多発する自然災害と世界的な異常気象

近年、台風や豪雨などの自然災害の件数・被害額は増加傾向にあります。また、異常気象が広い範囲で起きてしまうと農作物がうまく育たず収穫量が大きく減ってしまう原因になります。

④世界的な人口増加

世界の人口は2050年には97億人になると予想されています。将来必要な食べ物の量が増え続けて、生産が追いつかなくなるかもしれません。食べ物を輸出している国で食べ物が足りなくなったときは、自国の人が食べる分を確保するため輸出を制限する場合もあります。

⑤農畜産物を生み出す資材費の高騰

農畜産物の生産に欠かせない肥料や飼料、燃料などが、ウクライナ情勢や円安の影響で高騰し、農家の経営を直撃しています。この生産コストの上昇分を販売価格に上乗せすることが進んでおらず、このままでは農業を続けたくても続けられないという苦しい状況が続いています。

■生産資材と農畜産物の価格の推移を比べてみると
（2020年を100とした指数）

農業物価統計調査より全中作成

今日から「国消国産」！　私たちにできること

必要とする食料を作り続けていくために、私たちができることって何だろう…？

そこで「国消国産」の意識です！**できるだけ国産のものを手に取り、食べることが生産者の皆さんを応援することにつながります。**

また、おいしくて安全・安心な島根県の農畜産物をいつまでも食べ続けたい…。それを実現するのが「地域で生産された農畜産物を、その地域で消費する」という考え方の「地産地消」。スーパーで島根県産を選ぶ、地元の直売所を利用する、外食でも島根県産の食材を使っているお店を選ぶ。そんな身近な行動が島根県の生産力を押し上げ、島根県の農業を元気にしていきます💪✨

私たちの一つ一つの行動の積み重ねが「食」の未来につながる。今日から少しずつ意識を変えていきませんか？😊

今日からプラスひとくち

みんなが１食でごはんをさらにひとくち（17グラム）多く食べるだけで、食料自給率を１％上げることができます。

※出典：公益社団法人　米穀安定供給確保支援機構「茶わん１杯のごはん」

食べて「国消国産」を応援

島根米食べ比べセットをプレゼント！

島根県産「コシヒカリ」「きぬむすめ」「つや姫」（各2kg）の食べ比べセットを**50名様**にプレゼント!

詳細については、JAしまねのHPをご確認ください。
（QRコードもしくはJAしまねで検索）

※画像はイメージです